

団体情報

設 立 年	2003年
所 在 地	静岡県浜松市
ミ ッ シ ョ ン	外国人集住地域に所在する外国人学校として、外国人児童・生徒に適切な教育環境を与え、その心身の成長を促し、母国語で幼・小・中・高等学校における教育を行う。併せて、子どもたちの日本社会への適応力を身につけることを目的に、積極的に日本語教育を行うとともに、日本文化・習慣に接し、地域交流の機会を提供する。
設立の経緯・事業に取り組むようになった背景	1990年、国内の労働力不足を解消すべく入管法が改正。これにより中南米から多くの日系人出稼ぎ労働者が来日し、多くの問題が噴出することとなった。それは、「労働力」としての受け入れを想定していたが、やってきたのは「生活者」であったからだ。中でも深刻だったのが親に帯同して来日した子どもたちの教育の問題だった。日本語学習、母語喪失、学習不振、ドロップアウト、親子関係、非行等々、枚挙にいとまがなかった。「すべての子どもたちに学ぶ喜びを～教育に国境はありません」をスローガンに、子どもたちのセイフティネットとして「母国語で学習を積み上げ、日本語学習で生きる力をつける」をモットーに2003年ムンド・デ・アレグリア学校を設立した。

団体の専門性・強み

子どもたちの教育機関でありながら、保護者の問題、生活者としての外国人ファミリーのサポート、支援も実施せざるを得ない。まさに学校が外国人問題の縮図であり、それに真っ向から約20年に渡り取り組んできた経験、実績、知識は他に比類を見ない。

活動を行う上での、自団体の悩み

国としての移民政策がない中、長期間に渡り日本に在住している南米からの外国人は定住外国人の扱いのため、恒久的な対策が講じられていない。そのような中での学校設立であるため、法律上日本の学校と同等に扱われない。(存在意義が浸透していない)
そして、本校が取り組んでいる問題(社会問題)が深刻であると言うことが未だ広く知られていない。

事業内容	
事業名	コロナ禍で多文化共生社会の歪に落ちた子どもたちの救済
対象者・地域	対象者:南米からの定住外国人の子どもたち 地域:浜松市・湖西市及び周辺
事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍の影響を受けた経済困窮家庭など、地域で教育の機会が失われそうな子どもたちを対象とした送迎範囲・体制の強化により、潜在的不就学、不登校数を減らし教育を受ける権利を守る(=外国人生徒受け入れている日本の学校現場の救済ともなる) 2. 学習言語未発達の子どものに、日本語・母語とも補習を実施し、学習意欲を向上させる 3. ダブルリミテッド生徒の実態調査を実施し、調査結果を報告書にまとめ報告会開催等によりアウトプットすることで、コロナ禍による多文化共生社会における教育の問題を可視化するとともに、ダブルリミテッドの問題を公立の学校とともに考える仕組みづくりの必要性について行政等に提言、働きかけをする

目指すもの	
事業終了時のアウトプット(短期的目標)	ファクトを積み上げ、データを収集・可視化して問題提起する
中長期的アウトカム(中長期的目標)	問題提起することで、行政・教育施設などと連携体制を構築し、どう解決していくか方法・対策を示していく

